



一昭和大学病院の理念一

患者本位の医療
高度医療の推進
医療人の育成

発行 昭和大学病院、昭和大学病院附属東病院

発行責任者 昭和大学病院長 有賀 徹

編集責任者 広報委員長 河村 満

〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8

TEL : 03-3784-8000 (代表)

昭和大学病院のホームページ : <http://www.showa-u.ac.jp/SUH/>

昭和大学病院附属東病院のホームページ : <http://www.showa-u.ac.jp/SUHE/>

昭和大学病院内視鏡センターの今後

内視鏡センター長 村上 雅彦

昨年、内視鏡センター長の吉川望海教授の定年退職に伴い、内視鏡センター長を命じられました。現在、昭和大学では、消化管疾患は、消化器病センターにおける消化器内科部門での診断・内視鏡治療、消化器外科部門での外科的治療、腫瘍内科による化学療法と、内科と外科との密接な連携のもと、見落としがない質の高い・適切な治療を提供することを目指しています。元来、各部門で独自に行われていた診断・治療を、診療科の枠を越えたチーム医療という枠組みで取り組むことに重点を置いています。その中で、内視鏡センターは、診断・治療という意味でも中心的な部門ということになります。しかしながら、本センターは今まではセンターとは言いながら、機構上ただ内視鏡を行う場所ではありませんでした。これでは、大学病院としての内視鏡の質は向上しませんし、内視鏡医の育成もままなりません。そこで、今まで関係部署からセンター長を兼務遂行して頂いていましたが、今年は病院長直属の選任センター長を配置し、センターの指導のもと、統一した規定、内視鏡診断・治療を目指します。これによって、診療科に関らず、統一した、質の高い・安定した医療を提供でき、質の高い内視鏡医育成が可能となります。また、昭和大学病院として、横浜市北部病院・藤が丘病院の内視鏡センターとの連携も行い易くなり、昭和大学全体としてのレベルアップ

にもつながります。

当センターは昨年は年間1万件以上の内視鏡検査を実施いたしました。

上部消化管検査 5680件、下部消化管検査 3777件、気管支鏡検査 150件、

膵胆管系検査 603件、

がその内訳です。また、

消化器癌に対するEMR(内視鏡的粘膜切除術)/ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)等の内視鏡治療は671件に及びました。

今後は、内視鏡治療がさらに増加する事、低侵襲手術としての腹腔鏡手術と内視鏡手術の合同手術等の大学病院に求められる先進医療の推進が課題となる事を踏まえ、内視鏡ベッド数の拡充やセンター内での患者さんの環境改善も早急に行う課題として計画中であります。その意味では、今年は新内視鏡センター開設の年でもあります。今後、変わりゆく内視鏡センターを温かく見守って頂けたらと思います。

最後に、進んで受けたいと思うようなセンターを、病院一丸となって目指し努力していきますので、患者さん・近隣の先生方には忌憚のないご意見をお聞かせ願えれば幸いです。



※ 平成 25 年 3 月末で定年を迎えられる、診療科長の先生方が 4 名いらっしゃいます。今回はその方々のご挨拶を、2 ページから 5 ページで掲載させていただきます。

定年退職にあたって

血液内科 教授 友安 茂

本年 3 月をもって定年退職します。昭和 42 年に昭和大学に入学して以来、素晴らしい先輩、同輩、後輩、医療スタッフに恵まれて、無事退職を迎えることができました。卒業後、血液学を専攻し当時の第 2 内科大学院（清水盈行教授）に入学し、鶴岡延熹講師（後に血液内科初代教授）の指導のもと、赤血球疾患の病態解析を命じられ、life work の鉄代謝の研究を開始し、その後は白血病、悪性リンパ腫などの血液疾患全般についての研究も行いました。

血液内科教授就任と同時に腫瘍センター長を兼務しました。昭和大学病院では各診療科で診断されたがんの治療は継続してその診療科が治療をしていた診療体系を腫瘍センター、腫瘍内科で施行するように病院全体の意識改革を進めていきました。昨年、医学部内科学講座主任、副院長となり、病院内外を東奔西走の一年でした。その中でも特に昭和大学内科研修制度を作りあげるのは貴重な経験でした。研修医および各附属病院の意見、各教室の意見、内科部門長の希望、大学院との整合性など山のような問題を事務の方々の協力のもと何とか上げることができ御礼申し上げます。臨床試験支援センター長、院内感染防止対策委員会、輸血療法委員会、がん診療運営委員会の委員長、その他の多くの委員会に出される議題に対して、関連部署の方々のご協力で何とか解決してきました。

今後の昭和大学医学部は江東豊洲病院の開院、旗の台キャンパスの再開が予定されています。思い出しますと、昭和 50 年台後半から医療施設の整備が整い始めました。17 階建の入院棟、9 階建の中央棟が竣工され全国の医療関係者が見学に押しよせ昭和大学病院を世に知らしめたこと、藤が丘病院、横浜市北部病院、豊洲病院の開院、烏山病院の改変によって総ベッド数が 3000 床以上になったこと、大学評価（THES-QS）で世界ランク 198 位、読売新聞の「大学の實力」で A と認定されたことなど歴代理事会、教授会の洞察力、指導力、実行力を肌にした在職期間でした。今後、昭和大学の更なる発展を祈念してやみません。長い間有難うございました。



早いもので昭和大学病院を定年退職させて頂くことになりました。2005年9月1日に和歌山県立医科大学付属病院から転勤して7年7カ月勤務したことになります。就任のご挨拶にも書かせて頂きましたが、沈黙の臓器である腎臓の疾患は無症状に進行し、気付いた時には透析や腎移植以外に治療手段が無い、という状況を打破するために、慢性腎臓病（CKD）対策に注力してきました。蛋白尿などの誰でも気付く異常所見と、腎機能が正常の60%未満という簡明な基準で診断されるCKDは成人の8人に1人が発症し、透析や腎移植の予備群となるばかりでなく、高い心臓血管系疾患への罹患率と短い生命予後から喫緊の対策を要する国民病です。CKDは国の重点研究課題に指定され、昭和大学病院は品川区医師会、大森医師会のご協力を得て、



研究拠点施設として患者さんの早期発見と管理の病診連携に取り組んできました。全国的には2009年、2010年と透析導入患者数が減少に転じましたが、2011年には再び増加してしまいました。昭和大学病院ではばらつきはありますが、近隣の先生方から多数のCKD患者さんをご紹介いただき、透析導入患者は漸増傾向です。今後も病診連携をより充実し、透析や移植を要する患者さんの増加の抑制への努力が大切です。

わが国では末期腎不全の治療に腎移植普及の遅れが指摘されています。当院では消化器・一般外科の先生方の絶大なご協力を得て腎臓移植が増加し、とくに透析導入前の先行的腎移植を開始することができました。残念ながら献腎移植の機会は得られませんでした。腎移植は内科・外科が一体となって今後も積極的に取り組んでいく課題です。

在任中関連学会からたくさんの診療ガイドライン（GL）が発表されました。もちろん私達の立場からは最低限の推奨内容ですが、患者さんやかかりつけ医の先生方にとってはGLの達成が必須と考えられ、そのため受診、紹介される患者さんも増加しました。GLはあくまでも指針で、個別の患者さんへの画一的医療の規定ではありません。しかし、そうした理解が深まるには少し時間がかかるのかも知れません。

豊富な人材の確保は診療科にとって最も大切な課題です。たくさんの若い有為の人材が当科に参加して下さいました。彼らが専門医として十分に才能を発揮することによって、腎臓内科はさらなる発展を遂げると確信します。皆様のこれまでの温かいご援助に深謝し、さらなるご支援をお願いして退任の挨拶とさせていただきます。

昭和大学病院並びに東病院の皆様には大変お世話になりました。私こと、この3月で定年により退任致します。本欄に13年間を振り返った“診療編”を書き留めようとする、頭に浮かぶのは産婦人科医師不足で括られる事柄ばかりです。

昭和大学病院が東京都から総合周産期母子医療センターの指定を受けたのは2003年で、ちょうど産科医師不足がどん底に向けて滑落し始めた頃にあたります。臨床現場でもその徴候は既に現れていて、増加する分娩とハイリスク症例の搬送に対応する人員の確保はその後困難を増していきました。まさに医師不足との戦いの日々だったように思い出されます。

そんな中起こったのが世に言う「妊婦のたらい廻し事件」です。事件は2008年の10月に起こりました。都内の産婦人科医院から容態の急変した妊婦の搬送依頼があったものの、周産期施設の多くが受け入れ困難と返答したため搬送先に到着するまでに長時間を要し、患者さんが亡くなるという残念な出来事でした。搬送先の最終選定に時間が掛かったのは、周産期患者の情報伝達体制が未完成であったこと、周産期医療と救急医療の連携が不十分だったこと、及びNICUの急速な需要拡大によりベッド不足が慢性化していたことが直接の原因であります。東京都でさえも妊婦の搬送を困難にしている最大の背景要因は周産期に携わる医師の不足でした。救急患者の搬送体制の不備をマスメディアに指摘されたとき、当時の石原都知事と舛添厚労大臣が渡り合った光景は、皆様にとっても記憶に新しいのではないのでしょうか。この事件の波紋は大きく、都の周産期医療の責任者を務めていた私にまで圧力が及びました。他府県も似たような状況にあったと思いますが、東京都でも、上述の事情から搬送先施設の選定に時間を要する事例が現実増加していましたので、重症の母体だけは何とか迅速に搬送できる新体制を構築する必要性がありました。そこで創設されたのが、通称「スーパー母体搬送」、正式名「東京都母体救命搬送システム」であります。昭和大学病院、日赤医療センター、日大板橋病院の3病院が「スーパー総合周産期センター」として輪番で対応します。搬送元施設で母体の緊急状態と判断された症例は、当番病院が全て直ちに受け入れるシステムです。但し、当番病院が遠い時は、救急車が患者を搬送する間にも近くで受け入れ可能な病院を探し、見つかった場合は途中で行き先を変更します。このシステムは2009年に運用が開始され、それから3年以上経ちますが、お陰様で順調に機能しており、妊産婦死亡数も減少している印象があります（統計的に証明するにはもう少し長い年月の観察が必要です）。

昭和大学病院が「スーパ総合周産期」の役割を果たしているのは、産婦人科のみならず、救急医学科、小児科、麻酔科、神経内科、胸部外科、脳神経外科、消化器外科、整形外科など多くの科の先生方のご協力の賜物で、特に3日に1度のon callのローテーションを担っている現場の若手医師の皆様には心底から謝意を捧げるところであります。

様々なことがありながら、産婦人科医師不足は一時期改善に向かっていました。しかし、ここに来てその方向がまた怪しくなりそうな兆しを感じています。医師不足は多くの診療科に共通する問題です。その解決に向けて、私も努力を続けるつもりでおりますが、昭和大学病院の皆様にも全員の力を束ねて問題解決への歩を進めて下さるようお願い致します。合わせて病院の益々の発展をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



この3月末日をもちまして無事に定年を迎えます事は、皆様のご支援の賜と感謝致しております。麻酔科の科長として一番頭を悩ました事を記し、退任のご挨拶とします。

私が入局致す前から、麻酔科には主に外科系の各科からラウンドと称して若手医師が常時5人以上3ヶ月間の研修にいられていました。彼らは麻酔管理の指導を受けると共に麻酔科の戦力の一端を担っていました。ところが、平成16年に新臨床研修医制度が開始されると、この各科からのラウンドが廃止されました。研修医制度が始まった当初、麻酔科は必修科目に指定されていなかったため、麻酔を担当する医師が不足して手術室の業務に障害を来す恐れがありました。当時病院長を務められていた飯島正文先生が、いち早くこの問題の重要性に気づかれ、各科に麻酔科の研修を終えていない医師の派遣を奨励して下さい、事なきを得ました。



翌年からは昭和大学の研修プログラムに麻酔科が必修科目となり、この問題は無くなりましたが、麻酔科自体のスタッフ数はこの頃が一番少なく、手術室で勤務する者は11名と、サッカーの1チームと同数しかいませんでした。スタッフの数が野球チームになったらどうしようなどと、私は密かに按じておりました。麻酔科の使命は、各科の手術への麻酔管理の実施であり、麻酔科のスタッフ不足により手術が施行出来なくなれば、大学病院の存続に拘わる大問題になります。事実2003年から数年にわたって麻酔科が崩壊した大学が幾つかありました。しかし、研修医が必ず麻酔科で研修するように制度が変更されると、麻酔業務の実際を体験するためか、段々と入局者が増えるという思わぬ効果が現れました。この傾向は各施設でも見られ、日本麻酔科学会の会員数は研修医制度実施後には以前より遙かに増加しました。

当科のスタッフ数も充足し、やっと一息つけるようになった頃に、今度は藤が丘病院に問題が生じ、教室員を派遣する事になりました。また日本のためには嬉しい事ですが、女性スタッフに産休者が続出した時期もあり、教授就任後5年ぐらいはスタッフの確保が心配で、気の休まることはありませんでした。現在では、院内にサッカーチームが2組組めるほどのスタッフを維持でき、ほっとしていますが、教授就任時には僅かに数人であった女性医師が急増し、男女比は5:6と、女性医師数のほうが多くなりました。

麻酔科の業務は常時他科との共同作業であり、労働環境は当科だけで決定できるものではなく、関連する各科の協力が不可欠です。退職にあたり、今後も引き続いて麻酔科へご協力を戴くようお願い致します。

平成 25 年 3 月末定年退職者

【昭和大学病院】



氏名：河岸 正明
所属部署：管理課
職種：事務員
昭和 51 年 4 月 1 日入職

【昭和大学病院附属東病院】



氏名：深澤 克方
所属部署：臨床病理検査室
職種：臨床検査技師
役職：技師長
昭和 52 年 4 月 1 日入職

【昭和大学病院附属東病院】



氏名：佐々木 さよ子
所属部署：皮膚科 外来
職種：看護師
昭和 62 年 4 月 1 日入職

【昭和大学病院附属東病院】



氏名：村田 和子
所属部署：麻酔科 外来
職種：看護師
役職：主任補佐
平成 5 年 4 月 1 日入職

最終講義のご案内

平成 25 年 3 月末で定年退職される先生の最終講義が下記の通り開催されますので、是非ご来聴ください。

- ・内科学 血液内科学部門 教授 友安 茂 先生
日時 平成 25 年 3 月 13 日 (水)
16 時～17 時
場所 入院棟地下 1 階 臨床講堂
- ・内科学 腎臓内科学部門 教授 秋澤 忠男 先生
日時 平成 25 年 3 月 26 日 (火)
17 時～18 時
場所 入院棟地下 1 階 臨床講堂

※前月号において、誤記がございましたので、下記の通り訂正しお詫びいたします。

誤：「開始時間 18 時～」 正：「開始時間 17 時～」

平成 25 年 2 月 1 日（金）、小児医療センター3 階・4 階病棟にて「節分会」が開催されました。

みんなで「鬼は外、福は内～」という掛け声とともに壁に貼られた鬼の絵に向かって豆まきをしていると、突然鬼の絵をやぶって、赤鬼と青鬼が現れみんなを驚かせました。最後にはみんなの元気な掛け声と豆まきにより、鬼も降参しました。

大人も子供も一緒になって節分会を楽しみました。



N3病棟の様子

平成 25 年度 医療安全・感染対策講習会開催のお知らせ

※医療法施行規則に基づき、医療機関の職員は年に 2 回以上、医療安全・感染対策講習会に出席する必要があります。皆さん必ず出席しましょう。

平成 25 年度の年間スケジュール

第 1 回：平成 25 年 4 月 26 日（金）

テーマ：チーム医療を考える、宝塚歌劇団に学ぶ、礼節と組織構造 / 感染対策

講師：関 久恵（平成 1 年退団）、小川 あずみ（平成 4 年退団）

時間：18:00～19:15

場所：上條講堂

第 2 回：平成 25 年 5 月 30 日（木）

テーマ：平成 25 年度版ポケットマニュアル活用法

時間：〔2 部制〕 17:15～18:15 ・ 18:25～19:25

場所：上條講堂

第 3 回：平成 25 年 9 月 24 日（火）

テーマ：医薬品の安全管理 / 感染対策

時間：〔2 部制〕 17:15～18:15 ・ 18:25～19:25

場所：上條講堂

第 4 回：平成 25 年 11 月 13 日（水）

テーマ：感染対策 / 医療ガス / 個人情報

時間：18:00～19:00

場所：上條講堂

第 5 回：平成 26 年 1 月 27 日（月）

テーマ：医療機器の安全管理 / 感染対策

時間：18:00～19:00

場所：上條講堂

ほくろのがんについて

ほくろのがんとは

悪性黒色腫は、メラノーマと呼ばれる皮膚がんの一種です。皮膚がんにもいろいろ種類がありますが、皮膚の色を作っているメラノサイト（色素細胞）ががん化したものがメラノーマです。メラノーマは、最もたちが悪いと言われ、黒くほくろのように見えるので「ほくろのがん」とも呼ばれます。

早期発見のために



日本人の場合、発生しやすい部位は、足の裏が約3割を占めています。以前からあった、あるいは新しくできた、ほくろやしみが、急に大きくなった、形が不規則になった、色が黒く濃くなった、出血するなどの変化はありませんか？

1年に1-2回程度、自分で皮膚を点検しましょう。

気になって針でつつく、自分で取ろうとすることは悪化させることに繋がります。

心配して悩まず、皮膚科専門医に相談しましょう。

ダーモスコープ検査とは

ダーモスコープという拡大鏡で、皮膚の状態を詳しく診る検査で、痛みを伴わない簡単な検査です。この検査によって良性のほくろや血腫などと区別することができるようになってきています。



皮膚がん発生の予防のためにできること

海水浴やスポーツ、仕事などで長時間、過度の紫外線を受ける場合は、皮膚を紫外線から守ることが大切です。日焼け止めクリームを塗る、帽子や日傘を使う、長袖を着るなど、日常生活の工夫をすることで、皮膚がんの発生を予防しましょう。

日本皮膚科学会 皮膚科 Q&A 参照

<http://www.dermatol.or.jp/qa/qa12/index.html>



聴覚障害者が関わる医療現場 =入院編③=

医療機関はだれもが受診しやすい環境でないといけません。聴覚障害者は聴者に合わせるのに慣れているため多少の不便は我慢し、聴者に合わせたコミュニケーション手段として筆談や読話（唇を読み取る）で頑張っているというのが現状です。また手話通訳に関して間違った認識を持たれている場合もあります。聴者は「手話が読み取れない・分からない＝手話通訳が必要」なのです。つまり聴覚障害者だけでなく聴者にとっても必要なのです。さて聴覚障害者が医療現場で感じる不安を紹介します。

§ 携帯やパソコンが使えないので家族に連絡ができない・FAXを借りにくい

☞ 携帯の使用を禁止している医療機関は多いと思います。聞こえる方は公衆電話から連絡ができますが、聴覚障害者はメールかFAXによる連絡手段しかありません。その場合、医療機関や本人の希望を考慮したうえで一番よい方法を考えてください。

※ 当院内では携帯電話・FAXは所定の位置でご利用いただけます。

§ クスリの飲み方がよくわからない

☞ 入院中はクスリの管理を看護師がやっており、云われるままに服用していたため、退院後自分で管理することになった時に非常に困った、という声が多数あります。特に聴覚障害者は育ってきた環境や周りの音が聞こえないという理由から、クスリに関する知識や情報も入らず、説明を受けても理解しにくいなどといった状況が起こります。服薬指導をする薬剤師や看護師が聴覚障害者のことを理解して、それぞれに合ったコミュニケーション手段で接しながら、確実に伝わる工夫をしてみましょう。

ワンポイントコラム =聴覚障害をもつ偉人=

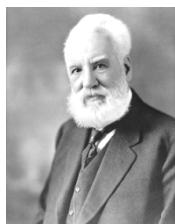
「聴覚障害者」は昔から存在しています。ヘレン・ケラーも聴覚障害者ですね。

TVやマスコミの影響で聴覚障害者の存在が認識されていますが、むかしは差別がひどかったため聞こえないことを秘密にしたり聴覚障害を受け入れなかった人が多かったのです。

アレキサンダー・グラハム・ベル

〈1847年～1922年〉

電話はもともと聴覚障害者のコミュニケーション支援のために開発されたそ



うです。ベルの誕生日である3月3日は「耳（みみ）の日」として聴覚障害者関係のイベントが全国各地で行われています。

杉 敏三郎

〈1845年～1876年〉

明治維新で有名な吉田松陰氏の弟で、袴などの裁縫を職としていました。



杉山 杉風

〈1647年～1732年〉

この俳人は江戸幕府に出入りしていた魚問屋主人で、寛文12年（1672）に松尾

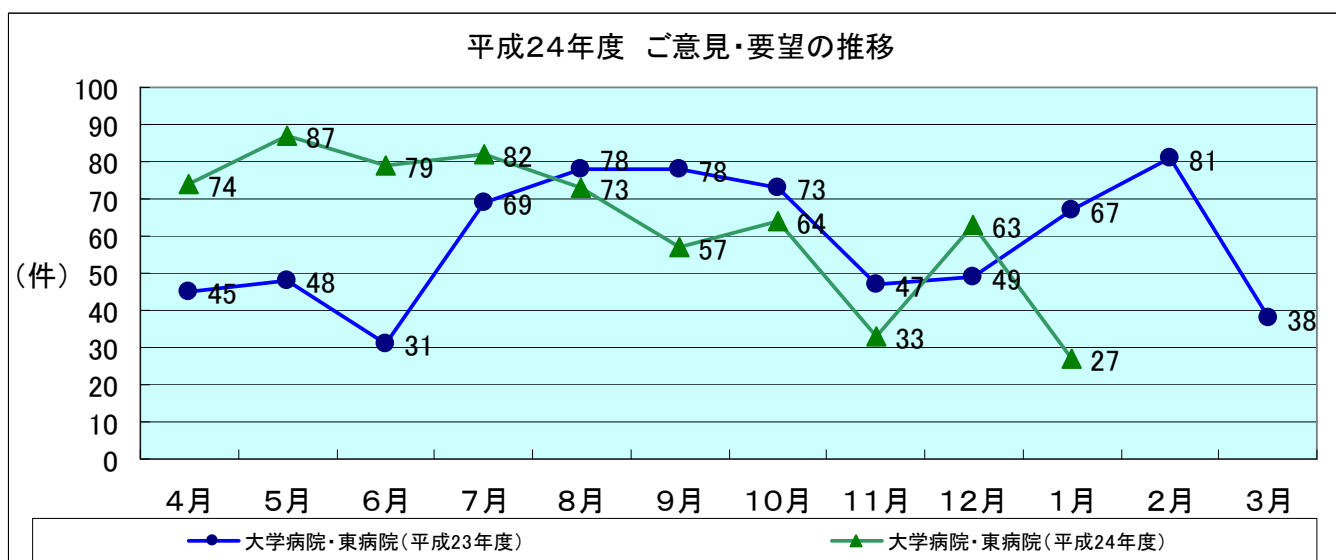
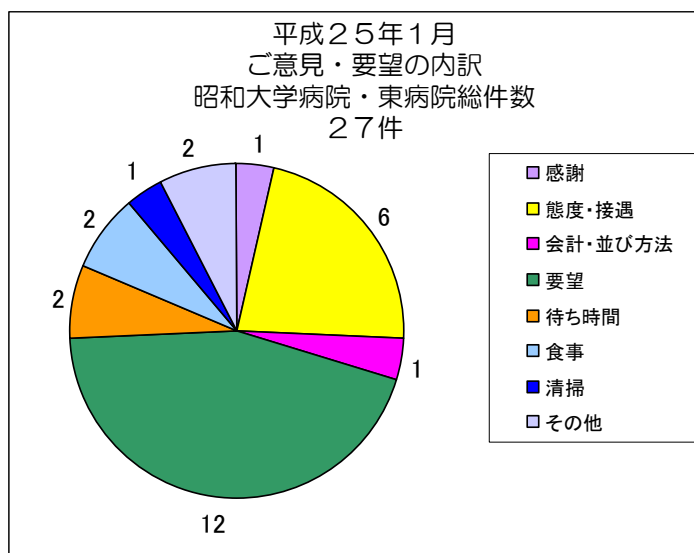


芭蕉が江戸に来た直後に門弟になりました。そして豊かな経済力で松尾芭蕉の生活を支援していました。

今号をもって「しゅわ」は終了します。
長らく読んで頂き、誠にありがとうございました。

患者さんのご意見・要望

内容	ご意見・要望	回答	回答部署
1つ意見	食事がもっとおいしいと良い。	食事が満足して頂けなかったことに対し、まずはお詫び申し上げます。現在、献立を全面的にリニューアルすべく検討を始めたところです。これをなるべく早急に進め、皆様のご要望に応えたいと思います。貴重なご意見をいただきありがとうございました。	栄養科
1つ意見	看護師さんの教育が行き届いていない。チェックもこまめではなく、患者として心配。お任せしていて大丈夫なのか？先生との連絡もうまくとれず不信感を抱いている。	今回、看護師の対応、医師との連携不足で不信な思いを抱かれたことに対して、お詫び申し上げます。詳しい記載がなく、事実確認ができませんが、今回のご意見を師長会で共有して、各部署への指導を行なっていきます。	看護部



第7回 院内コンサート

日 時：平成25年1月25日（金）

15時～15時30分

場 所：昭和大学病院附属東病院

3階ディルーム

出演者：志村 洋子 さん

演 目：ヴィバルディ春より、荒城の月、
浜辺の歌、花 他

観客者数：37名

職員（手伝い）：16名



コンサートの様子

アンケート結果（集計枚数21枚）

本日のコンサートはいかがでしたか？

- | | |
|------------|-----|
| ①大変良かった | 12名 |
| ②良かった | 9名 |
| ③あまり良くなかった | 0名 |

第50回 院内コンサート

日 時：平成25年1月26日（土）

15時～16時

場 所：昭和大学病院

中央棟1階エントランスホール

出演者：もにばん

演 目：愛のあいさつ、世界の車窓から、愛燦々、
男はつらいよ 他

観客者数：78名

ボランティア・職員（手伝い）：19名



コンサートの様子

アンケート結果（集計枚数53枚）

本日のコンサートはいかがでしたか？

- | | |
|------------|-----|
| ①大変良かった | 21名 |
| ②良かった | 32名 |
| ③あまり良くなかった | 0名 |

院内コンサート開催のご案内

- ・第51回 院内コンサート
日 時：平成25年3月23日（土）
15時～16時
場 所：昭和大学病院中央棟1階エントランスホール
出演者：田園調布混声合唱団
- ・第52回 院内コンサート
日 時：平成25年5月25日（土）
15時～16時
場 所：昭和大学病院中央棟1階エントランスホール
出演者：山内 理央
(ピアノ演奏)



※是非ご参加ください。

※院内コンサートボランティア募集

院内コンサートは職員や地域のボランティアの方で運営されています。
ボランティア活動をしながら、患者さんと一諸に音楽を楽しみませんか？
ボランティアの活動内容は、簡単な会場設営と患者さんの搬送、コンサート中のお世話です。
ご協力いただける方は、管理課までご連絡ください。お待ちしております。

管理課 (03-3784-8515)

編集後記

3月は旧暦では「弥生（やよい）」で「弥生（いやおい）」が変化したものとされます。「弥（いや）」は「いよいよ」「ますます」、「生（おい）」は「生い茂る」と使われるように「草木が芽吹くこと」を意味し、草木がだんだん芽吹く月であることから「弥生」となったともされています。

病院だよりの3月号をお届けします。4名の退任教授のご挨拶は感慨深い名文で、定年退職者のお名前からはご一緒した当時のご活躍が懐かしく思い出されます。お世話になりました。

3月5日は啓蟄です。さあ、我々も寒がっていないで、昭和大学・昭和大学病院・附属東病院の明日のために、芽吹いて、活動を開始しようではありませんか。

高木 康

ご意見・要望につきましては、メールアドレス：tayori@ofc.showa-u.ac.jpまでお願いいたします。

病院広報委員会委員：秋澤 忠男、秋山 正基、板橋 家頭夫、伊藤 亜紀子、岩田 照雄、内田 英二、
門倉 光隆、河村 満、城所 扶美子、崔 昌五、高木 康、二木 芳人、平野 勉、
深貝 隆志、松原 蘭女、峯村 純子、村木大佑、村田奈央、渡辺 聡（50音順）